

# 研究部

宮崎県小学校体育連盟 研究部

## 第1回

令和5年6月2日(金)14時～16時

- 1 自己紹介
- 2 研究部長・副部長について
  - 副部長は学体研発表地区の研究部長（串間）
- 3 令和5年度の研究と研究計画について
  - 令和5～7年度の研究について ……P2～5
- 4 各地区の研究主題、研究領域について
  - 令和5年度各地区研究主題及び研究領域一覧表（×切7月22日） ……P6
  - 令和4年度各地区研究主題及び研究領域一覧表 ……P7
- 5 第64回宮崎県学校体育研究発表大会について
  - 開催要項・小学校部会の役割分担・発表地区輪番（×切6月9日（金）） ……P8～10
  - 1年間の大まかな流れ ……P11～12
  - 学体研の「小学校部会の研究」と「つながりのある学習の研究」について ……P13～14
  - 串間地区より研究の進捗状況
  - ポスターセッション担当地区の進捗状況（令和5年度東臼杵地区）
- 6 県学校体育研究発表大会における研究発表、授業者発表、ポスターセッション ……P15～21
- 7 研究集録用報告書について
  - 紀要原稿をそのまま県小体連のホームページにアップします。
- 8 その他
  - 情報交換等 各地区小体連連休の現状や課題があれば

## 第2回

令和5年8月18日(金)13時～16時 県総合運動公園合宿所

- 1 第64回県学校体育研究発表大会について
  - 学体研小学校部会 役割・仕事内容の確認 日程の詳細
  - ポスターセッション担当地区のプレ発表（東臼杵小体連、大学派遣生）
  - 午後の合同研修会にて串間・日南地区小体連の研究経過報告と指導案検討
- 2 地区小体連の研究等について
  - 各地区の研究主題、領域、年次計画等について
  - 午前中に各地区の進捗状況・昨年度実践報告 現状と課題（2～3分）  
R4 研究集録で口頭発表、または紙上発表（20部）プレゼン等（プロジェクター準備事務局）
- 3 研究集録用報告書の作成について
  - 紀要原稿をそのまま県小体連のホームページにアップします。
- 4 その他
  - 全国・九州学体研報告等
  - 情報交換等

※ 学体研事前研 10月6日（金）串間市立大東小学校  
小学校部会 11月27日（金）串間市立大東小学校 9:10 ～ 16:00

※ 宮崎県小学校体育連盟ホームページ、学校体育研究会ホームページの定期的な閲覧と登録

第64回宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会開催要項（案）

R5.7.20時点

1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

2 主 催

宮崎県学校体育研究会

3 共 催

宮崎県教育委員会 串間市教育委員会 日南市教育委員会

4 後 援

宮崎市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会  
宮崎県私立中学高等学校長会

5 主 管

第64回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会  
串間市小学校体育連盟・日南市小学校体育連盟  
南那珂地区中学校体育連盟  
宮崎県高等学校体育連盟日南・串間支部  
宮崎県特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会

6 期 日

令和5年10月27日（金）

7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員  
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

8 会 場

期 日	種 別	会 場
10月27日（金）	小 学 校 部 会	串間市立大東小学校
	中 学 校 部 会	串間市民総合体育館
	高 等 学 校 部 会	県立福島高等学校
	特別支援学校部会	県立日南くろしお支援学校

9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習] 》（令和5～7年度）

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを  
実現するための資質・能力の基礎を育む体育科  
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

10 日 程

10月27日（金）	小 学 校 部 会	9:10	10:00	11:00	14:40	15:45				
		8:40	9:50	10:45	11:45	12:30	14:30	15:40	16:00	
	受付	研究会 発表 行事	視 点 説 明	授 業 発 表 Ⅱ (各 部 会)	授 業 発 表 Ⅰ (つ な が り)	昼 休 準 備 食 憩 備	授 業 研 究	ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン	閉 会 行 事	
		(40分)		(45分)	(45分)		(120分)	(2コーナー)		
会場：串間市立大東小学校										

## 11 内容

### (1) 小学校部会

#### ① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～		
役職名	氏名		
研究発表者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
視点説明	串間市立北方小学校	教諭	川原裕一朗

#### ② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第3・4学年	ゲーム 「プレルボール」	串間市立本城小学校 教諭 吉井湧人
II (地区)	第5・6学年	ボール運動 「ソフトバレーボール」	串間市立都井小学校 教諭 黒原麻由

#### ③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名		
指導助言者	南九州大学人間発達学部	教授	宮内 孝
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	財津 吉正
司会者	宮崎市立宮崎東小学校	教諭	年永健二
記録者	美郷町立美郷南学園	教諭	佐藤 優美
	延岡市立旭小学校	教諭	菊池 真央
進行	日南市立吾田東小学校	教諭	日吉 祐太

#### ④ 研究発表

研究発表題目	発表者		
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方～「ゲーム・ボール運動」における主体的・対話的な授業の展開～	門川町立草川小学校 教諭 岩下 明弘	門川町立門川小学校 教諭 柳田 かおり	
進行・司会者	川南町立山本小学校	教諭	西村 恵理
記録者	えびの市立真幸小学校	教諭	本田 昭寿

研究発表題目	発表者		
「アクティブ・ラーニング」によるマット運動の学習プログラムの有効性～小学校第6学年を対象として～	川南町立川南小学校 教諭 徳原 宏樹		
進行・司会者	都城市立西小学校	教諭	井手 省吾
記録者	国富町立木脇小学校	教諭	小嶋 健太

令和5年度 宮崎県小学校体育連盟 各地区役員一覧

番号	地区	研究部長	8月18日	10月6日	10月27日	
1	宮崎市	年永 健二	○	○	○	県研究部長
		宮崎東小				
2	東諸県郡	小嶋 健太	○	○	○	ポスター(大学院派遣)記録
		木脇				
3	日南市	日吉 祐太	○	○	○	進行
		吾田東小				
4	串間市	川原 裕一朗	○	○	○	研究部長
		北方小				
5	都城地区	井手 省吾	○	○	○	ポスター(大学院派遣)(司会)
		西小				
6	高原町	吉村 貴樹	×	×	○	
		後川内小				
7	小林市	高崎 雅士	○	×	○	アンケート集約
		須木小				
8	えびの市	本田 昭寿	○	×	○	ポスター(東臼杵)記録
		真幸小				
9	西都市	外川 真知子	○	×	×	
		三財小				
10	児湯郡	西村 恵理	○	×	○	ポスター(東臼杵)司会
		山本小				
11	東臼杵郡	佐藤 優美	○	○	○	授業研究会・指導助言記録
		美郷南学園				
12	日向市	黒木 翔太				
		寺迫小				
13	延岡市	菊池 真央	○	×	○	授業研究会・指導助言記録
		旭小				
14	西臼杵郡	松岡 嵩隆				
		高千穂小				

**第64回 宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会  
小学校部会 事前授業研究会開催要項**

**1 目 的**

小学校部会における研究授業及び授業研究会等が計画的かつ効果的に実施されるよう事前授業研究を行い、学習指導法の改善・充実に努め、串間・日南大会の進展を図る。

**2 主 催**

第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区実行委員会

**3 共 催**

宮崎県教育委員会・串間市教育委員会・日南市教育委員会

**4 主 管**

第64回宮崎県学校体育研究発表大会串間・日南地区実行委員会  
宮崎県小学校体育連盟・串間市小学校体育連盟・日南市小学校体育連盟

**5 期 日**

令和5年10月6日（金） 午前8時40分から午後4時

**6 参加対象**

地区実行委員会小学校の関係職員  
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係職員  
宮崎県学校体育研究会役員

**7 会 場**

串間市立大東小学校

**8 研究主題**

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習」  
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

**9 日 程**

8：40～ 受付  
9：20～ 9：50 開会行事、視点説明  
10：00～10：45 授業発表Ⅱ（各部会）ボール運動（ネット型）「ソフトバレーボール」  
11：00～11：45 授業発表Ⅰ（つながり）ゲーム（ネット型）「プレルボール」  
11：45～12：45 昼食、休憩、準備  
12：45～15：00 授業研究会  
15：00～16：00 当日に向けての確認

**10 授業内容**

時 間	学 年	単 元	授 業 者
授業発表Ⅱ 10：00～ 10：45	第5・6学年	ボール運動 「ソフトバレーボール」	串間市立都井小学校 教諭 黒原 麻由
授業発表Ⅰ 11：00～ 11：45	第3・4学年	ゲーム 「プレルボール」	串間市立本城小学校 教諭 吉井 湧人
指 導 助 言 者	南九州大学人間発達学部	教 授	宮内 孝
	県教育庁スポーツ振興課	指導主事	財津 吉正

11 具体的内容（10月6日） 場所：大東小学校体育館

時 間	内 容	担当・役割
9:20～9:50	開会行事：視点説明	Iの説明：年永 健二 （宮崎県小体連研究部長） IIの説明：川原 裕一朗 （串間市小体連研究部長）
10:00～10:45	授業発表Ⅱ（各部会） 第5・6学年 ボール運動「ソフトバレーボール」 指導者 黒原 麻由 教諭	
10:45～11:00	次時の準備	
11:00～11:45	授業発表Ⅰ（つながり）第3・4学年 ゲーム「プレルボール」 指導者 吉井 湧人 教諭	
11:45～12:30	昼食・休憩・移動	
12:30～15:00	授業研究会 （1）Ⅰの授業者振り返り、質疑、協議 （2）当日に向けて （3）Ⅱの授業者振り返り、質疑、協議 （4）当日に向けて （5）指導講評	進行・司会：日吉 祐太 （日南市小体連研究部長） Ⅰの記録：外山 武志 （串間市小体連） Ⅱの記録：野崎 俊輝 （串間市小体連研究副部長）
15:00～16:00	当日に向けての確認	進行：須志田 史也 （串間市小体連理事長）

12 小学校部会大会当日の内容

※ 授業発表及びワークショップ型授業研究

時 間	学 年	単 元	発 表 者
授業発表Ⅱ 10:00～ 10:45	第5・6学年	ボール運動 「ソフトバレーボール」	串間市立都井小学校 教諭 黒原 麻由
授業発表Ⅰ 11:00～ 11:45	第3・4学年	ゲーム 「プレルボール」	串間市立本城小学校 教諭 吉井 湧人
指導助言者	南九州大学人間発達学部 県教育庁スポーツ振興課	教 授 宮 内 孝 指導主事 財 津 吉 正	
進 行	日南市立吾田東小学校	教 諭 日 吉 祐 太	

13 事前授業研究会での事前及び事後業務内容

<総務部> ○接待（来賓） ○来賓案内 ○受付

<会場部> ○会場設営（体育館） ○来賓の控え室設定 ○来賓の控え室表示  
（来賓）

○南九州大学人間発達学部 宮内 孝 教 授

○県教育庁スポーツ振興課 財津 吉正 指導主事

○宮崎県小学校体育連盟会長 長尾 岳彦 校 長 ※他にもいらっしゃいます

<交通輸送部> ○駐車場設定（来賓・一般） ○体育館までの誘導 ○ 案内

<研究部> ○授業準備 ○研究協議資料準備

### 新学習指導要領に対応した学習指導計画作成上の留意点（学習指導案作成例）

小学校 運動領域 体育

※令和2年度九州学体研の指導案をもとに作成 学校体育研究会 HP にもアップ済み

第6学年2組 体育科学学習指導案

令和 年 月 日 ( ) 校時  
第6学年2組(男子〇〇名・女子△△名)  
場 所 〇〇小 体 育 館  
指 導 者 〇 〇 〇 〇

※視認性を高めるため、書体（UD フォント等）、大きさを工夫する。

※学習指導要領解説体育編（以下解説）の目標（P116～117「知識及び技能」：P121「思考力、判断力、表現力等」：P122「学びに向かう力、人間性等」）に当たる。語尾を「～**することができるようにする。**」に変えて表記する。

#### 1 単元名 体づくり運動（体の動きを高める運動）

※「領域名」（解説 P24）「内容（型や種目等）」

#### 2 単元の目標（第5学年及び第6学年の2学年分）

- (1) 体づくり運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたり **することができるようにする。**
  - ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったり **することができるようにする。**
  - イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を **することができるようにする。** （知識及び運動）
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に **伝えることができるようにする。** （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったり **することができるようにする。** （学びに向かう力、人間性等）

※体づくり運動のみ運動他は技能

※体育科の目標  
解説 P17～23

※5・6年の目標  
解説 P112～116

※学習指導要領の目標や内容（育成を目指す資質・能力）を示す際に、「知識・技能」という表記は間違いである。各資質・能力の区切りは「・」ではなく「、」である。

- ・ 知識**及び**技能（体づくり運動だけは知識**及び**運動）
- ・ 思考**力**、判断**力**、表現**力**等
- ・ 学びに向かう**力**、人間性等

#### 3 運動の一般的特性

高学年の体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成され、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。

高学年では、手軽な運動を行うことを通して自己や仲間の心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするとともに、低学年・中学年での多様な動きをつくる運動（遊び）を踏まえ、体の動きを高める運動の行い方を理解し、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めて中学校での体づくり運動の学習につなげていくことが求められる。

※その領域や内容の運動の特性について明記する。  
「体づくり運動」であれば、解説 P116 A 体づくり運動 1～8 行目  
解説 P25～26 4 各領域の内容 (1) 運動領域の内容 ア 体づくり運動系

※この色は知識及び技能関連

※思考力、判断力、表現力等

※学びに向かう力、人間性等

#### 4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級では、  
一方で、  
これまでの体育科での学習を通しては、  
一方で、

※本学級の児童の実態、体育科の授業における状況、これまでの運動経験及び日常的な運動活動について明記する。

※これまでの学習（他教科等含む）において、指導内容がどの程度身に付いているのか、また、本單元に関する運動の体験状況（体育学習、少年団活動等）について明記する。

(2) 「知識及び運動」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び運動」に関しては、

※体づくり運動のため、  
運動 他は技能

※主語は児童

※知識及び技能  
解説 P20～21  
※系統表  
解説 P174

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、

※思考力、判断力、表現力等  
解説 P21～22  
※系統表  
解説 P182～183

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、

※学びに向かう力、人間性等  
解説 P22～23  
※系統表  
解説 P184～185

※新体力テストのデータから単元とかかわる体力や学校として伸ばしたい体力の状況について明記する。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

体力テストにおいては、

総合評価の割合は、A・B 段階が〇〇%、C 段階が〇〇%、D・E 段階が〇〇%という結果であった。

〇〇平均より

男子は、 女子は、

DE 児童は、

男女ともに、

テスト項目「立ち幅跳び」、「〇〇〇〇〇」において、

授業や昼休みの様子から

※体力向上に向けた具体的な取組（各学校における体力向上プラン参照）についても明記する。

※体力の向上については、  
解説 P7③ウ

※体力の向上を目指しとは、  
解説 P22～

※体力は～  
解説 P170～



※上記の児童の実態から、教師がどのような内容に重点を置き、指導していくかを具体的に明記する。  
その際に、単元の目標を具現化するため、教師の意図的・計画的な指導が明記されなければならない。

## 5 学習を進めるに当たって

※主語は教師

本単元では、

単元を構成するに当たっては、

単元のはじめのオリエンテーションでは、

単元前半では、

単元後半では、

単元の終わりには、〇〇大会を

単元を通して、

※体づくり運動  
解説 P11(エ)  
P116～

※「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫する  
解説 P18～19

「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、

授業前半の〇〇では、

授業後半の〇〇では、

その過程で、〇〇できるようにしていきたい。

学習カードは

そのために、

また、単元を通してタブレット端末を効果的に活用していきたい。

※主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
解説 P14～15

※研究の視点や  
本時に該当する部分は  
書体を変えたり、  
太字にしたり、  
アンダーラインを引くなどして  
分かりやすくする。

本時において、

※主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、  
解説 P161～162 P18～19

はじめの段階では、ペア活動（体の柔らかさや力強い動きを高めるための運動）を音楽に合わせて～

※課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して～ 解説 P9

なかの段階ではまず、「〇〇するためには、どうすればよいか」とねらいを確認する。

※課題を見付け、その解決に向けた学習過程とは～ 解説 P19

まとめの段階では、「〇〇するためには、〇〇すればよい」と学習のまとめをする。

カリキュラム・マネジメントの視点から、事前に保健における「心の健康」や「けがの防止」（第5学年）の学習を振り返ったり、「病気の予防」（第6学年）の学習を進めたりしておく。

それにより、児童が「体づくり運動」を学習する意義をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。

道徳科においても事前に「あきらめない心」や「相手を理解する心」などについて学習することで、学習中における自己や他者との関わり方の工夫につながり、体育科及び道徳科相互に学習効果が高まることを期待する。

単元途中や単元後も同様に、保健学習の「病気の予防」をはじめ、道徳や特別活動においても体づくり運動の単元を振り返りながら学習活動を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

カリキュラム・マネジメントについて明記する。（学校行事：運動会等含む）  
※解説 P4④～5 P8② P14⑦

学習指導要領解説：総則編

①P236～237 【心身の健康の保持増進に関する教育】  
（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）

②P240～241 【食に関する教育】

③P244～245 【防災を含む安全に関する教育】も参照すること。

※この色は「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（以下参考資料）関連

※保健で知識しかない単元でも評価の観点は全て「知識・技能」となる。

※「力」「等」はなく、区切りは「・」である。「思考・判断・表現」

## 6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容 の ま ま り ご と の 評 価 規 準	<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、体を動かす心地よさを味わったり、体の動きを高めたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体の関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりしている。</li> <li>・体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をしている。</li> </ul>	<p>自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>
①知識	①体力の必要性や体の動きを高めるための運動の行い方について、言ったり書いたり <u>している。</u>	①自己の体力の状況を知ったり、体の様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付 <u>けている。</u> ②思考・判断（本時）	①体の動きを高める運動に積極的に取り組 <u>もうとしている。</u> ①愛好的態度
②技能	②長なわを用いて回旋の仕方や跳ぶりリズム、人数などを変えているいろいろな跳び方をしたり、なわ跳びをしながらボールを操作したりすること <u>ができる。</u>	②ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの <u>かを見付け、それを生かした運動を工夫している。</u>	②運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合 <u>おうとしている。</u> ②共生
③技能	③人や長なわの動きに合わせて、用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすること <u>ができる。</u>	③グループで工夫した長なわ跳びをしながらボールを投げたり捕ったりする運動の行い方を他のグループの仲間に例示して見せたり、言葉で伝えたり <u>している。</u>	③運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果た <u>そうとしている。</u> ③公正・協力
	④人や長なわの動きに合わせて、用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすること <u>ができる。</u>		④運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組の良さを認め <u>ようとしている。</u> ④責任・参画
			⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配 <u>っている。</u> ⑤健康・安全

※参考資料 P106 をそのまま転記する。

※低学年の知識について 事実的な知識の獲得のみに主眼が置かれがちだが、言葉や文章のみで知識を表出することは難しい。動きはできているが、言葉で説明できない場合は、「暗黙知」として捉える。（例：自転車に乗ることができると知識もあると捉える）

①思考・判断

※低学年の評価内容に「共生」は示されていない。

※参考資料 P27 ~31

①知識

②技能

③技能

単元の評価規準

※本時に該当する部分は、**囲んだり、書体を変えたり、太字にしたりして分かりやすくする。**

※「知識」と「技能」に分けて設定 解説 P117~119

※「思考・判断」と「表現」に分けて設定 解説 P121, 122

③表現

※「愛好的態度」、「公正・協力」、「責任・参画」、「共生」、「健康・安全」に分けて設定 解説 P122、P10ウ(ア)

※語尾 「~できる」(技能)

※語尾 「~している」(知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)

※語尾 「~しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外)

- ・単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てる。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするにあたり無理のない計画を立てる。参考資料 P52、56、59、63、67

※本時は罫線を太くする。

### 7 指導と評価の計画(7時間)

時間	1	2	3	4	5	6(本時)	7
指導内容	知	②技能 (長なわを用いた動き)	①知識 (体の動きを高めるための運動の行い方)	③技能 (人や物の変化に対応した動き)			
	思				①思考・判断 (自己や仲間の課題発見)	②思考・判断 (課題に応じた取り組み方の工夫)	③表現 (仲間に伝える力)
	態	⑤健康・安全 (場や用具の安全)	④責任・参画 (仲間との認め合い)	③公正・協力 (準備や片付け)	①愛好的 (積極的な取組)	②共生 (仲間との助け合い)	

※集合・整列	解説 P167(8)	1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 主運動につながる準備運動						
学習過程	10分	3 単元の学習内容確認	3 ペアでの運動 ○ 課題となる運動 ※「ひなたプログラム」(事例集)から選択 ※音楽に合わせて					
	10分	4 本時のねらいの確認【課題発見・解決策の創造】 「○○するためには、どうすればよいだろうか」 ※学びに向かう力、人間性等の内容 場や用具の安全						
	15分	6 グループで試しの運動 <長なわ> ○ 長なわを使っているような運動 ○ 運動の工夫の仕方についての確認	6 グループで工夫した運動 <長なわ> ○ 片足ジャンプ ○ 回転ジャンプ ○ 背中合わせジャンプ	6 グループで工夫した運動 <長なわ+ラバーリング> ○ 棒バラン ○ 輪投げキャッチ ○ 2人3脚ジャンプ	6 グループで工夫した運動 <長なわ+フープやボール> ○ 輪跳び ○ ボール渡し ○ 背中挟み	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ ICT機器を活用して、動きについての課題を発見	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ ICT機器を活用して、動きを高めるためのポイントを確認	6 グループで工夫した運動 <長なわ+用具> ○ 工夫した動きとそのポイントを表現
	10分	7 本時のまとめ(学習カードの記入、振り返り、成果及び次時の課題の確認) 【課題解決】「○○するためには、○○すればよい」						
評価の重点	知		②技能【観察】	①知識【観察・カード】	③技能【観察・ICT】			
	思					①思考・判断【観察・カード・ICT】	②思考・判断【観察・カード・ICT】	③表現【観察・カード・ICT】
	態	⑤健康・安全【観察】	④責任・参画【観察・カード】	③公正・協力【観察】	①愛好的【観察・カード】	②共生【観察】		
準備物	長なわ、棒、ラバーリング、フープ、ボール、タンバリン、タブレット端末、プロジェクター							
カリ・マネ	保健領域：けがの防止(第5学年)、心の健康(第5学年)、病気の予防(第6学年) 道徳科：「あきらめない心」「相手を理解する心」							

※評価方法  
参考資料 P9、54

※保健との関連  
解説 P160(9) P163(3)

※道徳科との関連  
解説 P166～167 P224～231

※ICT  
解説 P167(3)

※単元終了後、  
総括的な評価へ  
参考資料 P57

※ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方である。単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要である。つまり、単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たることにより、指導内容が一層明確になると考えることができる。参考資料 P57



8 本時の学習(6/7時間)

※6 評価規準：思考・判断②との整合性を図る。  
本時の目標の語尾は「できるようにする」。

※目標なので  
思考力、判断力、表現力等

(1) 本時の目標

- ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの  
かを見付け、それを生かした運動を工夫することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価項目

- ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの  
かを見付け、それを生かした運動を工夫している。(思考・判断・表現)

※6  
思判②  
と同文

※本時の目標(学習内容)を実現するために、どのよう  
に学習活動を仕組んでいくのかを具体的に明記する。  
7 指導と評価の計画：第6時との整合性を図る。

※評価項目なので  
思考・判断・表現

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
はじめ 10	1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 主運動につながる準備運動 3 ペアでの運動 ・ 体の柔らかさや力強い動きを高めるための運動 ・ 音楽に合わせた運動 4 本時の <u>ねらい</u> の確認	・ ひなたプログラム(事例集)から選ばせることで、個人の課題解決となる運動に取り組めるようにする。	○：評価項目(評価方法)【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
なか 25	5 全員で共通の運動 ・ 移動しながら長なわ 6 グループで工夫した運動 ・ 長なわと用具の組み合わせ ・ ICT 機器を活用して動きを高めるためのポイントを確認 ・ 確認したことを生かして、動き方を工夫 ・ 思考と試行の往還  ※「ねらい」と「まとめ」が一致すること。	・ 前時までの課題解決を振り返らせることで、動きをさらに工夫しようという挑戦意欲を高めることができるようにする。 ・ ICT 機器を活用して動きをスローモーション等で確認させることで、動きを高めるための条件や負荷を工夫することができるようにする。 ・ 状況に応じ、活動を止め、発問をしたり、児童同士で気づきを交流させたりして、思考と試行を往還させることで、課題を解決できるようにする。	○：評価項目(評価方法)【Aの例】 ※本時の目標(学習内容)を実現するために、どのような指導を行うかを教師の立場から明記する。「どうやってそれをするのか」「なぜそれをするのか」「そうするとどうなるのか」等を明記する。 ○ ICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるの かを見付け、それを生かした運動を工夫している。(観察・カード・ICT) 個人やグループの課題を踏まえ、試行錯誤しながらよりよい課題解決に取り組んでいる。	※B評価 6②・8(2) と同文 友達のよい動きを見付けることや、条件を変えることについて教師が具体例を挙げて考えさせる。 ※C評価児童への手立て
まとめ 10	7 本時の <u>まとめ</u> (学習カードの記入、振り返り、成果及び次時の課題の確認)  動きを高めるためには、○○すればよい。 8 整理運動、片付け、挨拶	・ 課題解決を通して、良かった言葉かけや工夫した条件などを絵や図、文にまとめ、発表させることで、動きを高めるためのポイントに気づき、学びを自覚することができるようにする。	※A評価 「十分満足できる姿の設定例」 参考資料 P55	※評価方法 参考資料 P54 参照 AとCの児童だけチェックする。チェックがつかない児童はBである。

※音楽  
解説  
P159(1)

※評価項目が知識・技能であれば、解説 P119 参照 **運動が苦手な児童への配慮の例**  
主体的に学習に取り組む態度であれば、解説 P122、123 参照 **運動に意欲的でない児童への配慮の例**

## 令和5年度 各地区研究主題及び研究領域一覧表】

番号	地区	5年度		
		研究主題と副題	研究領域	年次計画
1	宮崎市	『生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための 資質・能力の基礎を育む体育科学習』 ～体育科学習における資質・能力を高めるための ICT の利活用～	全領域	3年計画 1年目
2	東諸県郡			
3	日南市	『生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の 基礎を育む体育科学習』 ～思考ツール活用による主体的・対話的で深い学びを目指して～	全領域	
4	串間市	運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成 ～主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～	ゲーム (ネット型)	3年計画 3年目
5	都城地区			
6	高原町			
7	小林市	『生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方』 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～	ネット型ゲーム	3年計画 2年目
8	えびの市	一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方 ～主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを通して～	全領域	3年計画 1年目
9	西都市	『主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方』 ～ ICT を活用した授業実践を通して ～	全域	1年計画 1年目
10	児湯郡	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～	全領域	3年計画 3年目
11	東臼杵郡	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための 資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～ボール運動による対話的で深い学びのある授業の創造と展開～		
12	日向市	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った体づくり運動の授業実践を通して～	体づくり運動 串団子走 短縄・長縄	3年計画 2年目
13	延岡市	運動を楽しみ、主体的・対話的に学ぶことのできる児童の育成 ～思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善と延岡市体育動画共有システムの構築を通して～	器械運動 跳び箱	3年計画 1年目
14	西臼杵郡	主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方 ～山間部小規模校の実態に即した活動の創造と展開～		

※ 提出期限：7月21日（金）